

オープニング「日の出に合わせた、雄鶏の鳴き声」

コミッサオン・ヂ・フレンチ 「収穫箱：地方の富を都市へと運ぶことの象徴」

振付 マルセロ・ミザイリヂス

ヴィラ・イザベウのコミッサオン・ヂ・フレンチは、パレードの幕開けとして、地方の農家と大都市住民との接点を表現する象徴的なものを用意しました。私たちがここに言及するその要素とは、収穫箱です。単純で素朴なつくりの収穫箱こそが、地方で生み出された富を保存し、集積場、市場、スーパー・マーケット、街角の売店などを通じて、生産された食糧が家庭にいきわたるように都市へと運搬されることの象徴としてのイメージを何世紀にもわたって伝えているものです。

コミッサオン・ヂ・フレンチが提示するのは、エンヘードの総括として存在すべき、「収穫箱」のイメージそのままに、大地の上で働き、富を生み出し、耕し、あるいはフェスタ・ジュニーナを祝い、大地から生じる生命の奇跡と共存する、そうした地方の農民の人生が運ばれている様子です。

男性と女性それぞれの要員を用い、ブラジルの地方を称える一連の絵画的風景を、単純な、楽しく、少しせつない形で、農民たちが果敢に日々の仕事に取り組んでいること、それが我が国の維持拡大に貢献している幾百万ものブラジル人を代表する姿であることとして、表現します。

メストリ・サラとポルタ・バンデイラ(第 1 ペア) ジュリオ・セザールとフッチ・アウヴェス 「トウモロコシ栽培と案山子」

第 1 アーラ 「朝の輝きの中で雄鶏が鳴いた！！！」

農園、農場、農家、その他、地方の風景につきものの鳥である雄鶏を表現します。雄鶏には、地平線に明るい線が湧きあがってくる頃、かなり朝早く、夜明けとともに新しい日の光が色々なものの姿を浮かび上がらせる頃に、日の出を知らせる天賦の才が備わっています。雄鶏こそ、新しい日の仕事に向けて地方の農民を起こしてくれる、真の目覚ましです。

第1部 「地球と太陽」

DESTACKI・ヂ・シャオン ガブリエラ・アウヴェス 「地球の青さ」

グループ1 「地球」(第 1 山車の前および横に登場)

宇宙からだ、地球は大部分が青い球体として見えます。地球が青く見えるのは、表面の大部分を覆っている海洋によるものです。しかし、海洋の役目は我々が惑星を青く見せ

ることだけではありません。水は、地球上に命が存在するために欠かせない要素でもあります。

土を耕し、収穫を増やす上で、農業開発にも水は欠かせません。そして、収穫を増やすことはすなわち、食糧生産を拡大して飢餓の撲滅に貢献することを意味します。一方、ふんだんな水資源、柔らかく肥沃な土地の存在に甘え、人間は水と土地を無秩序に利用しています。耕作地を拡大せずに、生産性を向上させるのだということを、私たちは忘れてはいけません。耕作地は増やさず、ただ食糧生産を拡大するのです。

第1山車「地球と太陽」

地球と太陽を表現します。

夜が明けて、雄鶏が鳴きました。農民が目覚めて、いつもの仕事にでかける時です。大半の生物が生存のために必要とするエネルギーは、直接または間接的に、太陽からもたらされます。太陽は膨大な量のエネルギーを産出します。太陽からもたらされる光エネルギーは、「生産者」と呼ばれる植物に存在する葉緑体に捉えられ、化学的なエネルギーに変換されます。このエネルギーが炭水化物その他の細胞——つまり「食物」——の生成に用いられ、当の「生産者」の生存・活動に利用されたり、「消費者」と呼ばれる動物に摂取されたりします。「光」エネルギーを利用してエネルギーを保存する細胞を「合成」することから、この作用を「光合成」といいます。

光合成は地球上における食物連鎖の重要なスタート部分にあたります。光エネルギーを食物へと転換するこの重大な作用がなければ、摂食の基礎を緑の植物が提供する有機物においている動物その他の多くの生物は生きることができません。

このように、植物の生命、私たちの食糧生産、そして何よりも私たちの生命を保つ役目を、地球と太陽とは近しく関連しながら負っています。

私たちは地球を守らなければなりません！森を枯らしてはいけません。水を、川や海を、汚染してはいけません。土壌を痩せさせてはいけません。そして何よりも、耕作地を拡大せずに食糧生産を3倍増にすることです。

新しい日の訪れを伝える使者である雄鶏も、この山車の装飾要素として用いられます。

地球を囲うように配置されたヘビは、大衆芸術家シコ・ダ・シウヴァの幻想的な生物の姿を基にしたものです。

デスタッキ(中央) エチネウソン「太陽、天界の王」

第2アーラ(コムニダーチ)「自然破壊の光景」

自然破壊の代償は大きすぎます！！人間は次から次へと森林を伐採しています。このつけは、人間自身に直接かかってきます。焼畑や伐採による森林破壊の結果、やがて土壌は痩せ、耕作不能となります。食糧生産は減少し、この惑星上を飢餓が覆います。衣装のドク

口は、自然の破壊およびそれにともなって発生する飢餓によって訪れる、人類の死を表現しています。

第3 アーラ(コムニダーチ)「焼畑」

焼畑は、人為的な森林火災を起こすことで、耕作用に整地したり牧草地へと転換したりしようとする原始的な農法のひとつです。しかし、焼畑には環境破壊という副作用がともなうことがよく知られています。焼畑の炎は、種子や若木や根をも焼きつくし、対象地域内の植生を根絶やしにし、その後では、人間や動物その他いかなる手段を経ても、原状回復が不可能となります。焼畑は森に暮らす動物たちをも襲います。

第4 アーラ(コムニダーチ)「空腹の人々」

飢餓は、私たちの惑星における深刻な問題のひとつです。飢餓に見舞われた地域は、空の皿とコップを手に食糧を求めて、地球上をさ迷い歩きます。飢餓は、土壌の濫用による劣化、すなわち耕作可能性、柔軟性、生産性の低下の直接的帰結です。旱魃、焼畑、森林破壊等々の要因で、土壌の豊かさが失われ、食糧がますます乏しくなり、飢餓が増すこととなります。

第5 アーラ(コムニダーチ)「旱魃の影響」

長期の降雨不足によって、旱魃が発生します。そこに生きる者は悲惨なことになり、耕作も不可能となります。水がなければ、植物も、動物も、当の人間も生きることができません。ここでも、飢餓と悲哀が顕著なものになります。

第6 アーラ(コムニダーチ)「不作」

旱魃、洪水、そして、土壌を劣化させて耕作に不適としてしまう森林破壊のような人為的な作用によって発生し、世界中に飢餓を広める、収穫不足。

デスタッキ・ヂ・シャオン ダンダーラ「凶作」

第2 山車「飢餓に立ち向かう人と動物」

第2の山車のテーマは飢餓です。

太陽は、一面では光合成を通じて食物をつくり出す、命に欠かせない存在ですが、他方、その力によって破滅的な影響をおよぼすこともあります。強く照りつける日光によって、水脈・水源が干上がり、私たちが利用できる水資源が枯渇し、耕作地が不毛な乾燥してひび割れた土地へと変質し、人や動物が避難しなければならなくなることがあります。木々は枯れ、果物も葉も失われます。これが悲惨な旱魃の光景です。そこではもう耕作はできません。悲哀と飢餓がつきものの、悲惨な現実です。

この環境のバランスが失われた状況を表現する上で、私たちは絶滅が危惧されている動物を選びました。アルマジロです。アルマジロには、生態系の中で重要な役目があります。昆虫を食べるという生態から、アリやシロアリの数を調整してくれるということです。偏った価値観でアルマジロを狩ったことで、生態系のバランスが崩れ、自然界に存在していた昆虫の数の制限要素が失われ、この無脊椎生物(昆虫)の増加を促し、結局、地域経済への打撃という帰結にいたります。

この情景に加えて、逃げるトカゲ、焼畑によって減らされた木々、湿度不足、そして、食糧を求める飢えた人々の姿を表現します。

デスタッキ(中央) ジョアン・エウデール 「旱魃の影響」

第2部 「作物につく虫」

グループ 2 「イモムシ」

イモムシは農業生産を減ずる害虫のひとつです。

第7 アーラ(コムニダーチ) 「バッタ(イナゴ)」

バッタも農作物の害虫とみなされる昆虫です。世界中、ほぼ全ての地域で見られ、大きな群れ(「バッタの雲」)をなして、植物を襲います。様々な木や草の葉を摂食します。

第8 アーラ(コムニダーチ) 「虫に食われた植物」

害虫に食い荒らされた葉は、もはや消費の役には立たず、また、当の植物の成長も危うくなります。

第9 アーラ(バイアーナス) 「テントウムシ」

テントウムシは農業開発にとっての益虫と考えられています。害虫から植物を守ると考えられています。

第10 アーラ(コムニダーチ) 「サウーヴァ(アッタ)アリ」

サウーヴァ・アリは樹液を食糧とし、植物を食べ尽くす虫として知られています。

デスタッキ・ヂ・シャオン ビアンカ・フェヘイラ 「植物の緑」

第3 山車 「自然界の生と死のサイクル」

第3の山車のテーマは、農業を脅かす害虫です。

バッタやアリなどの害虫や害獣のおそれは、農業においても、自然界全体で見ても、常

に存在します。しかしながら、自然には再生する力があります。人間の助力によって、あるいは生態系上の諸条件が整うことで、植物は新たに生い茂ることができます。ここで私たちは、植物が生えて枯れるサイクルの表現を目指します。枯葉にしても、地に落ちて、有機物からなる自然の肥料へと変質し、また土壌の水分を保つ役目も担います。

デスタッキ(中央) パウロ・サンチ 「自然の再生」

第3部 「農業」

グループ 3 「芽吹く種」

土壌と気候の諸条件が整うことで、耕作および種子の発芽が容易となります。

第 11 アーラ(コムニダーチ) 「緑の畑」

すくすくと見事に生育した「緑の海」を思わせる、作物の美しい姿。

第 12 アーラ(コムニダーチ) 「葉野菜の栽培」

クレソン、レタス、パセリ、チコリー、その他色々な葉野菜は、健康で強い体づくりや、精神的に豊かな生活を送るということで、人間の食糧摂取にとって大変重要な意味をもちます。

第 13 アーラ(コムニダーチ) 「豆類・根菜の栽培」

フェイジョン・プレット、ニンジン、カブ、ビーツ、ジャガイモ、その他色々な豆類・根菜類は、健康で強い体づくりや、精神的に豊かな生活を送るということで、人間の食糧摂取にとって大変重要な意味をもちます。

第 14 アーラ(パシスタス) 「サニャツソ(キンチョウ)」

サニャツソはブラジルに棲息する6種類の鳥を共通して呼ぶ名前です。

ブラジルで最もよくみられるのは、濃い青の背中と薄い青の腹をしたサニャツソ・ヂ・マモエイロ(「パパイア・サニャツソ」/ソライロフウキンチョウ)です。少し開けた林や畑や庭園に棲息し、虫や果物を摂食します。ふんによって種子を移動させることで、植生の拡大に貢献しています。

ハイニャ・ダ・パテリア サブリーナ・サト 「農場の小鳥」

第 15 アーラ(パテリア) 「案山子」

「藁人間」と呼ばれることもある案山子は、畑や農場や農園でよく見かける、古着や帽

子で作られて、布きれや藁や糸くずの詰め物をされていたりする、人形です。人間がいるかのように見せて鳥を追い払うことを目的に、畑の中に設置されます。

第 16 アーラ(コムニダーチ) 「農場の花」

畑や農場や農園に存在し田舎の風景に色とりどりの美しさを添える、様々な花の姿。

デスタッキ・ヂ・シャオン カレン・クンルーザン 「ヒマワリの美」

第 4 山車 「ヒマワリ」

第4の山車では、田舎の農民の農作業を表現します。

数ある農作の中で、象徴的な意味と美しさと実用性を兼ね備えるものとして選定したヒマワリの栽培に焦点をあてます。ヒマワリはアメリカ大陸原産の植物で、紀元前1000年頃のインカの人々によって栽培されていました。ジラーソル(日一回り)という名前は、その花が、日の出から日の入りまで、太陽を追うように動くことからつけられたものです。ヒマワリは、名声、成功、幸せ、新世紀などを象徴します。一般に「種」といわれる「実」は、野鳥や家禽の餌となるほか、食用油やバイオ燃料の原料としても活用されています。

デスタッキ(中央・上) ジョルジ・クレベル 「ヒマワリの開花」

デスタッキ(中央・下) マルセロ・モレーノ 「太陽を称える花」

第4部 「移民」

第 17 アーラ(コムニダーチ) 「ポルトガル系移民」

ポルトガル人は、16世紀にテーハ・ブラジリス(王領ブラジル)にやってきた最初の外国人です。彼らはブラジルに新しい農業を持ち込みました。黒人奴隷の労働力を活用し、輸出を目的とした、単一品目、特にサトウキビの栽培に集中した農業を立ち上げました。

第 18 アーラ(コムニダーチ) 「ドイツ系移民」

ドイツ人は、ヨーロッパからブラジルにやってきた移民で、主に南部に入植し、穀物類、特に大豆とトウモロコシの栽培の拡大に貢献しました。

第 19 アーラ(コムニダーチ) 「イタリア系移民」

イタリア人は、ヨーロッパからブラジルにやってきた移民で、主にサンパウロと南部に入植し、コーヒー栽培技術の拡大やブドウ栽培の導入に貢献しました。

第 20 アーラ(コムニダーチ) 「ウクライナ系移民」

数多くのスラブ系移民の代表としてウクライナ人を取り上げます。主に南部に入植し、野菜の耕作拡大に貢献しました。

第 21 アーラ(コムニダーチ)「日系移民」

日本人は、アジアからブラジルにやってきた移民で、主にサンパウロに入植しました。彼らは常に革新的で、新規農法や土壌改善方法を導入しました。野菜や果物の栽培拡大にとって重要な役割を担いました。

デスタッキ・ヂ・シャオン スザンナ・ピーリス「木綿栽培」

第 5 山車「木綿、およびその大衆芸術や工業分野での利用」

第5の山車のテーマは、木綿の栽培、およびその大衆芸術や工業分野での利用です。

木綿は、アフリカ、アジア、アメリカの各地に様々な原種が存在する、綿の木の果実である綿花から採取される繊維です。

木綿は農業活動の中でも重要な農作物の地位を占めています。私たちが日々身にまとう衣服。その織布も木綿から得られるものです。収穫期の木綿畑の美しさは、大衆芸術で何度も描かれているテーマです。繊維業界および食用油やバイオ燃料が作られる化学分野でも重要な意味をもちつつ、木綿は手作業で詰まれる一次産品であり、糸や布をもとに芸術が作りだされる、その部材でもあるのです。

デスタッキ(中央・上) サムエウ・アブランシス「芸術に変わる木綿」

デスタッキ(中央・下) アマーロ・セルジオ「木綿の収穫」

第5部 「農民の暮らし」

第 22 アーラ(コムニダーチ)「牛の飼育」

食糧事情の改善という意味をもつ家畜の飼育は、田舎の農民の暮らしにおける重要な一面です。牧畜は家畜を産ませ育てる活動です。中でも牛の飼育に焦点をあて、食肉、牛乳、および美味しいチーズや菓子類等の派生品の生産を表現します。

第 23 アーラ(コムニダーチ)「家禽の飼育」

小動物や、ニワトリ、七面鳥、ハトなどの家禽類の繁殖飼育に焦点をあて、様々な料理や菓子類(カンジャ・ヂ・ガリーニャ、フランゴ・コン・キアーボ、ガリーニャ・ア・カビデーラ、キンデン、各種ケーキ類)の基本となる食肉とタマゴの生産を表現します。

メストリ・サラとポルタ・バンデイラ(第 2 ペア) チエゴとナターリア「農場の風景」

小出車「田舎の結婚式」

ミナス・ジェライス州北東部のジェキチニョーニャの谷で作られる伝統的な焼き物になぞられて、新郎新婦が、内陸の町の住人たちの輪の中で祝福される姿を表現します。招待客がこの楽しい祝いの席を逃すことはありません。なぜなら、小さな教会の鐘が知らせてくれるからです。

第 24 アーラ(コムニダーチ)「日々の糧たるパン」

パンは、基本的かつ汎用性の高い食品です。小麦あるいはその他の穀物の粉と水と塩を原料として作られます。形や味は多岐にわたり、全ての文化圏に存在します。

第 25 アーラ(コムニダーチ)「料理をする女とボーロ・ヂ・フバー」

料理上手の女性たち、そしてその手が生み出す美味しい料理の数々が、親しい人々、懐かしい友人たちの集まりを飾ります。これもまた、田舎の人々のもてなしの心を象徴するもののひとつです。

第 26 アーラ(作曲者)「村のヴィオラ弾き」

ヴィオラ(・カイピーラ)の奏法は、ヨーロッパ、アメリカ原住民、アフリカの影響が融合して成立したもので、リズムやスタイルの確立した主だったものだけでも、トアーダス、カンチーガス、ヴィーラス、カーナス・ヴェルヂス、ヴァウシーニャス、モヂーニャスなどがある、ブラジルの田舎の音楽表現のひとつです。ヴィオラ演奏を用いる歌では、歌詞上の語り手は、謎めいて、夢をもった、土着のカボクロまたはその子孫です。

デスタッキ・ヂ・シャオン キテーリア・シャーガス「田舎の祭」

第 6 山車「仲間が来た、、、」

第6の山車は、ある田舎の家を表現します。

ここでもまた、ブラジルの大衆芸術がこの山車をつくり出す着想に貢献しています。ここに提示されるのは、住民がいて、薪のかまどがある台所など、家の体をなす生活スペースがあり、裏には家畜がいるような、一軒の田舎の家です。田舎の人々は、生まれつき、もてなしの心を持っています。来客があればいつでも、居住スペースと食べ物を分け与える用意ができています。

聖ペドロ、聖アントニオ、聖ジョアンなどに捧げるフェスタ・ジュニーナのような田舎の祭。そこには、おいしいものと、音楽と踊りがあります。それは収穫祭でもあります！田舎の人々が聖人に捧げる感謝！

この第6山車には、ヴィラ・イザベウのヴェーリャ・グワルダのメンバーも搭乗します。

DESTACKI(中央・上) ジョアオン・ボスコ・ヂ・メンドンサ 「セルタオンの月」

DESTACKI(中央・下) ジョルジ・ブラス 「祭の夜」

第6部 「農民の宗教性、そして収穫を祝う村祭」

第 27 アーラ(コムニダーチ) 「巡礼の列の天使」

田舎の人々には独特の信仰スタイルがあります。雨を求めて祈り、晴れを求めて祈ります。田舎の人々は、宗教的な祭でも、ノペーナ(「九日祈禱」)でも、巡礼でも、農作がすべてうまくいくように祈り、豊作に感謝して祈ります。

小出車 「信仰の祭」

この小出車では、田舎の人々の信仰スタイルを表現します。

田舎の人々は、雨を求めて祈り、晴れを求めて祈ります。宗教的な祭でも、ノペーナ(「九日祈禱」)でも、巡礼でも、農作がすべてうまくいくように祈り、豊作に感謝して祈ります。

人々の宗教性を表現するものとして、巡礼の輿、願掛けや祝福への感謝で捧げるロウソク、巡礼につきものの花びらの敷物、そして、祈りの対象である受難聖人を提示します。

この大国に住む人々の基礎は、信仰と、踊りや音楽の喜びがあります。特に内陸の都市では、祭がコミュニティ全体が顔を合わせ、友情、愛情、協力といった繋がりを改めて共有し、新密度を増す機会として機能しています。

宗教祭は、ブラジルの大衆文化を生き生きとダイナミックに表現するもので、植民地時代から連なる遺産や様々な習慣を内包して、ブラジル中のあらゆる階層の信心深い人と祭り好きの人を巻き込む、宗教的およびコミュニティの催事としての伝統の形で現れる、男たちと女たちの生き方の見本を示すものです。

第 28 アーラ(コムニダーチ) 「騒ぐ友達」

田舎の人々には、祭のスタイルでも独特なものがあります。特に6月と7月の祭には、豊作を祝うべく集合します。

第 29 アーラ(コムニダーチ) 「サン・ジョアンばんざい!!!」

ポルトガルの影響を受けたブラジル風の祭事、聖ジョアンに捧げる祭です。聖ジョアン祭を含むフェスタス・ジュニーナス(6月祭)は、農作物の豊作を祝う収穫祭でもあります。

メストリ・サラとポルタ・バンデイラ(第 3 ペア) ジャクソンとダンダーラ 「村祭」

第 30 アーラ(コムニダーチ)「花火を打ち上げよう!!!」

フェスタ・ジュニーナは田舎の人々の伝統的祝祭です。この祭の起源はポルトガルにあり、ダンスにはフランスの影響が、花火には中国の影響があります。花火は、聖女イザベウに向けてその子であるジョアン・バチスタの誕生を知らせるべく灯される火を象徴しています。

第 31 アーラ(コムニダーチ)「農民」

我が国の農業に身をささげている人々です。ブラジルを人類全体の穀倉、地球上最大の食糧生産・供給国へと転換する主体が彼らです。農民こそが今回私たちが称える存在です!!!

デスタッキ・ヂ・シャオン アンドレーア・アンドラーチ「果物」

第 7 山車「国内農業の力！世界に食糧を提供するブラジルの農民」

多大なる努力の成果がついに、青果市場に、小売市場に、そして私たちの食卓へと到着します。それも、ただ飢えを満たすためだけではなく、私たちの人生を喜びで満たすためでもあるのです。我が国のように広大で、多くの民族や文化を内包する構造をもった国では、当然ながら、料理にもその多様性が反映されるものです。多様な色と香りと味わいが私たちの食卓を豊かにしてくれています。それでも、ご飯とフェイジョンはどの食卓にも存在します。これも田舎の人々、真の価値を背負った農民のおかげです!!!